

近年、後継者が見つからないことで、黒字経営でありながらも廃業を選択する企業は決して少なくない。信用調査機関の帝国データバンクが発表した「全国「後継者不在企業」動向調査2018」によると、日本企業の後継者不在率は全国平均で66・4%だった。

調査は同社のデータベースに収録している企業(全業種)のうち、約27万6000社を対象としている。三重県は69・3%と、全国で12番目に高くなっている。その一方で経営者の平均年齢は58・5歳と全国で一番若いとの調査結果もある。経営者年齢の高齢化が進む

企業の後継者 地域で育成へ



後継者育成支援の一環として開かれている「百五後継者育成塾」

中で朗報ではあるが、年々上昇している傾向に変わりはない。

地域産業の衰退や若

いか。

者の都市部への流出などが問題となる昨今、企業が事業を継続で五銀行と兵庫で「百五後継者育成塾」を開講

している。今年4月から全7回の連続講座の中で、次期経営者候補が事業承継や経営につ

いて、業種の垣根を越えて学んでいる。塾生からは「ベテラン社員との折り合いが難しい」「自分に経営者としての資質があるのか悩む」などリアルな声もきかれ、同じ立場で悩みや課題を共有しながら、経営者に求められるスキルやネットワークづくりの重要性などを学べる場となっている。

後継者不在や事業承継問題を創業家一族や個社の問題としてではなく、地域全体で課題解決にあたることで企業の存続が実現し、地域の発展につながる好循環を生むことにならなければならないだろう。